

年間テーマ
「共に暮らす家族を大切に!」



No.374

ペンテコステ

2020年11月1日発行
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13

TEL 099-268-2064
FAX 099-268-5738

E-mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/tyco/>

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田 勇次郎 岸 誠之助 上原 敏子 上釜 照美

ペンテコステ 11月号—巻頭言—

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス 頭島光

世の終わりはいつか?

11月は諸聖人に始まり、待降節第1主日で終わります。まさに典礼暦年の終わりと始まりが11月に集中しています。ものにはすべて初めがあり、終わりがあるものです。しかし、この新型コロナウイルスに、果たして終わりがあるのかと危惧するほどです。この災禍の終息を祈るうちに早一年が経ちます。一向に衰える兆しが見えないコロナ禍にあって、気がかりはどこまで忍耐できるかです。それでも、神はいつかこの世界に終わりをもたらします。その時がいつ来るのか、勿論、誰にも分かりません。今はただ祈るしかありませんが、<終わり>について黙想しました。

◆世の初め

「初めに言があった。言葉は神であった」。これはヨハネ福音書冒頭の言葉です。初めとは創造の初めです。地表には文字通り何もありません。ただ神の霊が水の面を動いていた。創世記にはそう記されているだけです。無より有を作り出すお方だけが、この世の初めにおられるのです。意味は死から命を生み出す神がいる、ということです。キリストは死んで復活させられました。まさに救いの神秘は世の初めからそこにあった、というわけです。

◆愛の初め

「愛する者は皆、神から生まれ、…愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです」(ヨハ4:7-8)。これも同じヨハネの言葉です。ご承知のように、ヨハネはヤコブの弟でイエスから愛された弟子の一人でした。最後の晩餐の時、こよなく愛し抜かれた弟子の一人、それがヨハネでした。イエスは一人ひとりの弟子たちの足を洗われるほど大きな愛のお方でした。そのイエスの一番そば近くに寄り添っていたのも、この弟子でした。ですから、ヨハネ福音書はまさに愛の福音と言えるのです。

◆信仰の初めに

信仰宣言の中で、私たちは「主は、生者と死者を裁くために栄光のうちに再び来られます」と唱えます。このことが、世の終わりに起こるということです。正確には、この世界が終わったその直後に、再び来ると言っていますので、イエスが父のもとから、この世界に再び降りて来て下さるということです。私たちの信仰の終わりは、まさに主の再来臨によって、幕を閉じるという訳です。

◆死者から生者へ

私たちはこの世に生をいただいて、死に逝くその日までの間を生きていくわけですが、いつかその命を神にお返しする時が、必ず来ます。これは老若男女、まさに例外なく平等に訪れます。その意味は、死が命の終わりではなく、死を通して入る神の命への門だということです。死んで初めて行くことができる永久の住処、それが神の国なのです。そこですべての魂が神と共に愛の内に永遠に生きるのです。ですから、決して死は永遠の終わりではなく、新しい命への門出であり、復活の命、永遠の命なのです。



◆死者の月

11月は死者の月です。既に、この世での生涯を終え、神の御許に旅立たれた方々を思い起こしながら、夜長、語り合うのもいいでしょう。ふと思うことは、彼らは確かに今ここにいて、私たちと共に笑いながら酒を酌み交わしているかのようです。彼らの魂まで死んでしまったのではありません。神と共にあって、下界の我らを見ているのです。それは、いつかともに相まみえるその時までのことです。今、私たちがここにいるのは、そのつかの間のことです。

また逢う日まで、今日の日はさようなら。いつか必ずまいります、御父、あなたの御許に。逝くその日まで、と歌いながら、永遠の幸せを心から待ち望みましょう！